



Title	ユニセックス・ファッションに向けたデザイン画
Author(s)	王, 怡
Citation	デザイン理論. 2024, 83, p. 124-125
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/93446
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ユニセックス・ファッションに向けたデザイン画

王 怡 滋賀県立大学大学院在学

緒言

ファッション分野では、ファッションデザイン画は、デザイナーが考えたアイデアを具現化し、創造的なインスピレーションを表現するための有効な手段である。多様な素材や形態から成り立つ創造的なデザインでは、ファッションデザイン画を訴求力あるものとして描くために、デザイナーはドローイングの技術を習熟させ自分のアイデアを表現している。そしてデザイナーは、従来複雑な曲線形態の体形やテキスタイルの特徴を生かすため、手描きによるデザイン画を重視してきた。

独自の個性や新しい感覚が求められるファッションデザイン画には、抑揚のある線や、断続的に見える線の省略が行われるなど、線画の表現が多様であり、それがデザイン画全体の印象やファッションデザインの訴求力に果たす役割は大きいと考える。一方で、アパレル設計の現場においては、デジタルドローイングはテクノロジーの技術により、創作プロセスをある程度短縮し、作品の制作や修正も容易で、より簡単に創作できるようになった。しかし、具体的にどのようにデザインするかは、デザイナーの創造性に依存することである。そのため、ファッションデザインのプロセスがアナログからデジタルへの転換点にある今日、多くのデザイナーは、手描きとデジタルの、それぞれの特徴を活かしながら、訴求力を持つ創造的なファッションデザイン画を目指している。

また、ファッションはさまざまな社会環境や心理的なニーズによって変化するが、今日、伝統的なジェンダー概念に対立し、革新を求めるユニセッ

クス・ファッションは常に話題になっている。それらは、男女の性別を意識させないことを前提にデザインされ、個人としての衣服の美学、自由、平等の追求を満たすものであり、伝統的な考え方におけるジェンダー概念を打ち破り、個人の意識と個性を伝える。このような制限のない自由なスタイルは、今後の衣服の全体的な傾向になると考える。

そこでこの作品は、伝統的なジェンダー概念にとらわれず、個人のアイデンティティの表現を重視していたグラムロックをインスピレーションに、手描きとデジタルドローイング表現の特徴を用いて、ユニセックス・ファッションの新たな提案を行う。

方法と内容

テーマは、まるでステージの上で演技をしているかのように、自分の世界に没頭している4つの姿をデザインの対象とした。

まずアイデアの段階では、グラムロックのファッションスタイルについて資料の収集を行い、服の形や特徴、動きのある姿勢、スタイル全体の雰囲気、コラージュによって引き出した(図1)。



図1 コラージュ作品

そしてコラージュ作品のイメージを念頭において、シルエットを強調し、両性具有の特徴を生かして、今の時代のユニセックス・ファッションを抑揚がある手描きの線画で考案した（図2）。



図2 手描きの線画

次にその手描きの線画をデジタル上で、着色や細部の仕上げを行い、最終的な作品を完成させた。色彩について、グラムロックスタイルのような華美な色ではなく、今日のユニセックス・ファッションのトレンドに合わせて色を検討した。スリリングなメイク、クレイジー・カラーの髪、分厚いブラットホーム・シューズやキラキラ光るラメなどの装飾はグラムロックスタイルから取り入れた。

結果および考察

手描きとデジタルの持つそれぞれの特徴を活かしながら、グラムロックスタイルのテーマで、今日のトレンドに沿った個性的なユニセックス・ファッションのデザイン画を制作した（図3）。

制作の結果から、コラージュによって引き出したインスピレーション・ボードは、創造的なひらめきを示し、デザイン・プロセスの間、常に新し

いアイデアを提供したと考える。また、手描きでそのアイデアを具現化する際には、さまざまな表情を持つ線で瞬間に思いついた姿勢や動きを記録したり、直感で線を描いたり、創造的なデザインを表現することができた。

こうして手描きで考えたアイデアは、デジタル上では、体や服などのパーツごとにレイヤーを分けて、他の部分に影響しないように修正ができた。また、色調補正により、短時間でユニセックス・ファッションの特徴を持って、サーモンピンクとベージュなどの色彩の検討ができた。また、デジタルドローイングは、多様な画材を表現できるペンツールを使うことで、グラムロックスタイルにあるキラキラ光るラメなどの装飾を短時間で容易に表現した。

このように手描きとデジタルドローイングによる表現を用いることは、テーマに対するインスピレーションとアイデアを生かしたデザインの検討に極めて有用であり、今日のユニセックス・ファッションについての新しいデザインの可能性を広げると考える。

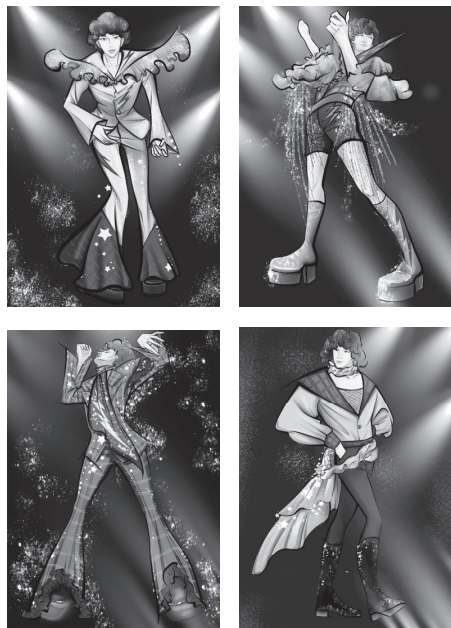


図3 ユニセックス・ファッションのデザイン画